

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Hypertensive disorders of pregnancy in relation to coffee and tea consumption:
The Japan Environment and Children's Study.

和文タイトル:

エコチル調査を用いたコーヒー・茶類摂取と妊娠高血圧症候群の関連性の検討

ユニットセンター(UC)等名: 大阪UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Nutrients

年: 2021 DOI: 10.3390/nu13020343

筆頭著者名: 川西 陽子

所属UC名: 大阪UC

目的:

コーヒー・茶類の摂取と妊娠高血圧症候群の関連性はまだ明らかでない。コーヒーや茶類はカフェインを含む代表的な飲料であるが、カフェイン以外の物質も多数含まれており、本研究では妊娠中のカフェイン・コーヒー・茶類と妊娠高血圧症候群について検討を行った。

方法:

本研究では、エコチル調査に参加した85533人の単胎妊娠で生産児を出産した妊婦を対象とした。妊娠中の食事摂取量についての食事調査票を使用してコーヒー・茶類(緑茶・ウーロン茶・紅茶)およびカフェインレスのコーヒー・茶類の摂取量を計算し、さらに推定カフェイン摂取量をコーヒー・茶類摂取量に基づいて算出した。妊娠高血圧症候群との関連性の検討にあたっては多変量ロジスティック回帰分析を用いた。

結果:

妊娠高血圧症候群は、2222人(2.6%)で発症した。カフェイン摂取は、妊娠高血圧症候群のリスクと関連を認め、カフェイン摂取量の四分位で最低位と比較して最高位で多変量オッズ比は1.26倍(95%信頼区間1.11-1.43)だった。1日2杯以上のコーヒー摂取をしている群ではコーヒー摂取をしない群と比較して多変量オッズ比は0.79倍(95%信頼区間0.62-0.99)と減少を認めた。茶類については、関連を認めなかった。

考察:(研究の限界を含める)

先行研究では、カフェイン摂取と妊娠高血圧症候群の関連は認めなかったが、鶏の胚を用いた研究では、妊娠高血圧症候群の際に生じることが知られている病理学的変化を認めており本研究の結果と合致する。コーヒー・茶類は、今までカフェインによる影響を別個に検討していないが、コーヒーは妊娠高血圧症候群のリスクを減少させ、茶類は増加させる傾向があった。コーヒーにはクロロゲン酸、茶類にはフラボノイドが豊富に含まれ、さらに茶類でも加工法の違いにより含有成分の分布は大きく異なることが知られており、単にカフェインの影響だけでなく、含まれる物質の分布の違いが妊娠高血圧症候群発症に関与していることが背景にあると推察された。

結論:

本研究から、カフェイン摂取が多いと妊娠高血圧症候群のリスクが上昇する一方で、コーヒーを摂取するとリスクが低下することが示唆された。コーヒーに含まれるカフェイン以外の物質が妊娠高血圧にたいして保護的に働く可能性があるかどうかについて、さらなる研究を要する。